

## 1. 単元名 海のいのち ～太一のなりたい自分～

「創造的実践力」の素地を養う物語の学習-「表現のしくみ」を蓄積するための焦点化教材の開発

「海のいのち」立松和平（東京書籍 6年）

## 2. 単元設定の理由

## (1) 単元について

118期生の子どもたちは「感覚的に物語を楽しむ」という物語への触れ方から、「分析的に物語を楽しむ」という触れ方にシフトチェンジさせるべく、焦点化教材などを通し、客観的に「どのように物語を読むのか」という「表現のしくみ」を蓄積してきた。6月には物語の魅力として「人物」に着目し、3つの焦点化教材の学習と、長文教材「風切るつばさ」の学習を行った。子どもたちは焦点化教材の学習を活かして「中心人物（主役）」と「対人物（相手役）」の関係の変化や、物語の構造を自身で読み解き、楽しみ、生活と結びつけながら思考をしていった。

本教材は中心人物「太一」が「村一番の漁師」をめざす半生の中で人と関わり、自身の考え方を変化させていく、成長の物語である。子どもたちは既習の物語教材等においてこのような変化→成長の物語は、半生という期間の違いはあれども多く触れてきている。しかし、この「海のいのち」は今まで子どもたちが好んで触れてきたであろう、「憧れの父を殺された少年が、人との出会いによって成長し、かたきを討つことに成功する」という、爽快なかたき討ちの物語の構成とは異なる。

少年期から青年期に移りつつある118期生の子どもたちにとっては、太一の父への憧れの部分は「自身もつ、あるいは経験してきた身近な人物への憧れ」と同化しやすいと思われる。また、その父を破ったクエを討ちたいと思い、与吉じいさに弟子入りすることまでは子どもたちにとって、分かりやすい内容であろう。しかし、その与吉じいさとの出会いがもたらした太一への影響、そしてそこから生まれる「父を破ったかもしれないクエを討つのか」「海という自然の中で生きていくのか」という太一の葛藤は子どもたちにとって共感しづらく、『課題』となるものであろう。そこで本単元では「どうして太一はクエを討たなかったの」ということを中心課題としておき、子どもたちが焦点化教材などで学習した読み方を用い、課題解決的に物語を読み進める単元を計画することとした。子どもたちが中心課題に向け、アプローチする視点としては以下の3つが予想される。

- ①文中の人物同士の相互の関係から考える。 ②「海」という舞台のもつ象徴性から考える。  
③作者が描いた他の物語から考える。

子どもの解決の道筋を「課題に対して見通す場面の子どもの思考」から見取り、柔軟に計画を変更し、読み進められるよう支援をしたい。また上記以外のアプローチが出た場合も、柔軟に受け止めたい。

本単元で子どもたちは小学校生活最後の物語の学習を終える。卒業を間近に控えた子どもたちにとって本単元の学習から見出した「太一の生き方」の意味付けが、自分が今大切にしているものを見つめ直したり、あるいはまだ見ぬ将来の姿を思い描いたりできるきっかけになればと考える。また、焦点化教材などを通して学んだ分析の視点や読みの力を生かし、自らの切り口で物語を楽しみ、今後も物語を手にとれる子どもの姿を育みたい。

## (2) 単元の目標

- 物語に興味をもち、中心課題について考えながら読もうとしている。【関心・意欲・態度】

「太一の生き方」を自身で意味づけ、自分の「生き方」を見つめなおしたり、自分に生かそうとしたりしている。

【関心・意欲・態度】

- 中心課題に向け人物同士の相互の関係や、「海」という舞台がもつ象徴性、多読から考える作者の共通して見られるメッセージ等から、太一の「なりたい自分＝村一番の漁師」像の変化を読むことができる【読むこと】

- 比喩表現や象徴表現、情景描写などの「表現のしくみ」に気づくことができる。【言語についての知識・理解】

### (3) 国語科の学習と未来そうぞうのつながり

現在、子どもたちは未来そうぞう科の学習「なりたい自分」(A 領域)として、様々なゲストティーチャーの方の「生き方」に関わる話を聞き、自身が今後何を大切に、どのように生きていきたいのかということを考えている。そこでは主体的実践力を発揮し、自らその職業について調べ、また真剣に話を聞き、質問する姿が見られた。本単元ではその未来そうぞう科の学習と「海のいのち」の学習を結びつけ、中心人物「太一」の半生を追いながら、「なりたい自分=村一番の漁師」が人との関わりの中でどのように変化し、成長していったのかということを考える。

### (4) 活動構成の仮説

**焦点化教材などの力を用いた長文教材での読みを通して、主に創造的実践力の素地を育む活動構成**

国語科ではめざす子ども像を「主体的表現者」とし、118期生の子どもも文学作品を今後の生活の中でも主体的に手に取り、自身の生活を豊かにするための一つの材として活用し続けられる姿を育みたいと考えている。そこで、6年間焦点化教材などで蓄積した読みの観点「表現のしくみ」を自分で選択・活用し、中心課題に向けて自身の力で読み進め、他者と協働し読みを深め、意味づけられる活動を構成した。それにより6年間の国語科の学びの中で何をどのように学んだのかということを知り、中学校でも触れる小説においても、より複雑化した行動・心情描写を楽しみ、自身の発見・形成に生かすことができる子どもの姿を育むことができるのではと考えた。

### 3. 単元計画 全7時間（時間4／7時間）

【本単元で直接使用する 蓄積した焦点化教材・長文化教材の学習】

アプローチ① 人物相関図から読む（6年焦点化教材実践「物語の魅力人物編」） アプローチ③ 多読から読む（6年長文教材実践「ヒロシマの歌」）

アプローチ② 舞台より象徴性を読む（5年焦点化教材実践アイテム「鏡」のひみつ）

学習活動の流れと子どもたちの意識の流れ	指導上の留意点	評価
<p><b>学習の流れをつかみ、課題意識をもつ。</b></p> <p>物語のおおまかな内容をつかみ中心課題に向け、太一ことでの「なりたい自分」を考える学習活動を見通す。1時間</p> <p>小学校生活最後の物語として、今まで力を使って、自分なりに読解している。</p> <p>どうして太一はクエを討たなかったのだろうか。これから、みんなで考えていきたいな。</p>	<p>○小学校で読む最後の物語としての太一の半生からどのようなものを自身で意味付けるのかを、未来そうぞう科「なりたい自分」の学習と関連付けた導入を行い、子どもたちに活動への興味・関心をもたせる。</p> <p>○子どもたちの初発の感想から「どうして太一はクエを討たなかったのか」という中心課題を見出し、その解決に向け太一の成長の過程に沿って、変化を読み解いていくという活動への見直しをもたせる。</p>	<p><b>関・意・態</b></p> <p>□授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○物語を初めて読む際に、物語に興味をもち今後の中心課題となる疑問を自ら見つけようとしている</p>
<p><b>中心課題に向けて、読みを深めていく。</b></p> <p>課題に向けての見直しをもち、グループごとに読みを進めていく。4時間（本時3時間目）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>アプローチ① 人物の関係から考えてみよう。</p> <p>おとうと太一の間を考えた。見たよ。太一が父と深く仲良かったことは僕もわかるな。</p> <p>じいさんと太一の間を読んでみたよ。じいさんが教えてくれたのは「技」ではなく、海での「生き方」なのかもしれないね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>アプローチ② 「海」という舞台から象徴性を考えてみよう。</p> <p>海はめくみの部分と、厳しさの部分があるんだな。母なる海という言葉もあつたよ。</p> <p>文中の海がもつ「めくみ」と「厳しさ」を分けてみよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>アプローチ③ 作者の他の物語から、考えてみよう。</p> <p>山のいのちから、読み進めてみよう。似ているところはあつたかな。</p> <p>山のいのちのじいさんが言っていることと、与吉じいさんの言葉が似ているよ。</p> </div> </div> <p>じゃあ、あらためてどうして太一は、「クエを討たなかった」のだろうか。自分の言葉でなるべく根拠をもつて語れるようにしてみよう。</p> <p>太一は、父を乗り越えるということ、海に生きるという選択をすることで考えたのかな。</p> <p>太一は、父を乗り越えるということ、海に生きるという選択をすることで考えたのかな。</p> <p>中心課題について考え、太一が結論づけた「なりたい自分」を自身の言葉でまとめる。1時間</p> <p>太一ことでの成長とは人の考えを受け入れるということなのかな。変化していくことがそもそも成長なのかもしれないね。</p> <p>「海と共に生き、そして穏やかに海の中で死んでいく」ということが、太一ことでの「村一番の漁師」なのかな。</p>	<p>○中心課題を解決するためにどのようなアプローチの方法が取れるのかを既習の学習から考え、自分の学習過程を選択・決定できるよう支援する。</p> <p>○アプローチそれぞれで、課題をいけるような学習過程を追っていくのかを考え、読み解いていけるよう子どもの国感から思考を見取り、めあてを立てていく。</p> <p>○4～5人程度のグループをアプローチの中でも構成し、模造紙に1時間ごとの学習をまとめていける場を設定しておく。</p> <p>○人物相関図(主にアプローチ①)や、イメージマップ(主にアプローチ②)、共通点を表にまとめる(主にアプローチ③)などの読み方を既習の学習を振り返ることにより思い出させ、自分たちで学習を進められるよう支援する。</p> <p>○アプローチごとに結論づけた中心課題への答えとその根拠を持ち合っ、交流する場を最後に作ることで、多面からの視点を得て子どもが考えを深められるようにする。</p> <p>○「なりたい自分」として、太一がどのようなことを大切に、村一番の漁師になったのかをまとめることにより、物語の中で成長を遂げた太一像をイメージする。</p>	<p><b>関・意・態</b></p> <p>□授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○中心課題に向けてどのようなアプローチができるかを考え、それに向けて選択・活動しようとしている。</p> <p>▲中心課題に向けてのアプローチを考えたことができない。</p> <p>▲アプローチの方法を自分で選択することができない。</p> <p>◇既習の学習事項を想起させ、過去6年間でのどのような物語の分析の仕方を行ってきたのかから考えさせ、その時の経験から選ぶさせる。</p> <p><b>読むこと</b></p> <p>□授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○自身で読みの見直しをもち、それぞれのアプローチから物語を読むことができる。</p> <p>○他のグループからのアプローチしている友だちの様々な「異なる読み」を、本文の記述をもとに考え、太一の「なりたい自分」について考えることができる。</p> <p><b>言葉についての知識理解</b></p> <p>□授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○比喩表現や象徴表現、情景描写などの「表現のしくみ」に気づくことができる。</p>
<p><b>作品を意味づけ、自身の感じたことをまとめる</b></p> <p>太一の生き方から自分が一番心に残ったことをまとめる。1時間</p> <p>自分もこれから、生き方に大きな影響を与えてくれる人に出会いながら、生きて行くのかな。迷った時こそ、自分が何を大切にしたいのか思いだしたいな。</p>	<p>○未来そうぞう科「なりたい自分」で使用していたワークシートと同様のものを使用し、子どもたちことでの自由な意味づけが促されるよう促す。</p>	<p><b>関・意・態</b></p> <p>□授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○「太一の生き方」を自身で意味づけ、自分の「生き方」を見つめなおしたり、自分に生かそうとしたりしている。</p> <p>□…評価の方法 ○…満足できる姿 ▲…支援を要する姿 ◇…支援の方法</p>

言語活動…

海のいのち

と

太一ことでのなりたい自分

と